

合同総合防災訓練



ヘリコプターによるビルからの救助



防災訓練想定

平成17年9月11日(日) 午前7時30分
佐渡島北方沖にてM7.8の地震が発生
両津地区においては震度6強
地震による大津波警報が発表され、両津
湾内に津波来襲の危険
台風に伴う大雨洪水警報の発令により両
津地区の河川水位が上昇

9月11日(日)、新潟県・佐渡市合同総合防災訓練が、地域住民の防災に対する理解と意識の高揚を図り、地域住民と防災関係機関との連携や協力体制の強化を図ることを目的として、両津港南埠頭岸壁を主会場に行われました。訓練には、53機関・団体総勢約2100人余りが参加し、住民避難訓練、炊き出し訓練、学校火災避難救助・消火訓練、船舶火災消火訓練、初期消火・119番通報訓練、座屈しル救助・消火訓練など41項目の訓練を行い、中には離島という特殊性から航空機による訓練を12項目実施しました。昨年の中越大地震後、県内で最初の合同総合防災訓練でもあり、参加した住民、各機関の方々には真剣な表情で訓練に取り組みれていました。



住民避難訓練



防災シンポジウム

9月3日(土)、佐渡島開発総合センターを会場に「防災シンポジウム」を開催いたしました。

気象庁地磁気観測所高橋道夫所長並びに北海道奥尻町役場長崎武巳主幹から地震による津波避難」をテーマにした講演、県の鶴巻防災局長ら5名をパネラーにパネルディスカッションを行いました。参加した住民の方は地震・津波災害に対する防災意識を新たに、改めて日頃からの備えが重要であることを再認識されていました。



新潟県・佐渡市



報告を受ける県知事と市長



パケツリレー



ボランティアセンター

備えあれば・・・

非常持出品・備蓄品を準備しよう

非常持出品・備蓄品の準備は防災対策の基本です。家族構成にあわせて準備しましょう。また、定期的に食品の賞味期限や電化製品の故障がないかをチェックすることも忘れずに。

非常持出品

避難するときに持ち出す最小限の必需品です。あまり重いと避難に支障が出るので、必要最低限のものをまとめ、すぐに取り出せるところに保管しておきましょう。

ヘルメット・防災ずきん、懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池、非常食、水、救急医薬品・常備薬、貴重品、生活用品

非常備蓄品

災害復旧までの数日間を自足するためのものです。最低でも3日間は自足できるだけの量を用意しておきましょう。

非常食、水、生活用品、工具類



赤バイク隊による安否確認



オイルフェンス



姉妹都市からの支援



新潟レスキューバイク隊

小木地区防災訓練

9月25日(日)

秋雨の中、午前7時30分佐渡地方を中心に激しい地震が発生。津波警報」が発令されたという想定で、けたたましくサイレンが鳴り、訓練が開始されました。小木外岬地区の住民は、津波から逃れるため、高台をめざす避難訓練では、子どもから高齢者まで参加した中で、避難時間を計り避難者の点呼、報告と臨場感を持った訓練となりました。

消防署員・団員の訓練を見学し、その機敏な行動に、「安堵感」を感じ、消火訓練に参加した者は、緊張感を持って真剣に取り組んでいました。

災害から逃れることは困難ですが、災害から身を守るためには、自分たちで出来ることを、普段から備えることの重要性を感じる、充実した訓練となりました。

